『 北国街道 西脇往還“善光寺道” 』を歩く

＊《第２回目：4/２３・２４ 泊り》

＜初日＞

松本駅１０時集合し、前回見過ごした松本宿本陣跡から岡田宿・刈谷原峠を越えて刈谷原宿・乱橋宿（間の宿）・会田宿手前までの１７㌔を歩く予定で出立。

本陣跡は、今は銀行だがここは松本郵便局発祥地と言う事で書状集箱と飛脚の像が立っている。

この先の交差点を左折すると　松本駅、右は縣の森（旧制松本高等学校）だが本町通りを直進する。左手に野麦街道への追分道標と牛つなぎ石が並んでおり、この先「右 ぜん光寺道」「左 大町街道」の新しそうな道標を曲がると中町通り。明治中頃の松本大火後に耐火構造なまこ壁の土蔵造りの家が軒を並べている。松本城下は湧水の町で「蔵の井戸」で喉を潤し、大橋で女鳥羽川を渡り、東町通りに入る。

川を渡らずに直進すれば、鈴木伊織の名が残る湧水「伊織霊水」や「時の鐘」の鐘楼だけが残る旧念来寺があるが素通り。幕末松本藩主は松平戸田姓だったが、戊辰の役での失態（本山宿で東山道軍総督岩倉具定を迎え勤王を申し出るも遅すぎるとの事で謹慎処分）に懲りて、明治初年からの廃仏毀釈の際には徹底した廃寺等を行った。

東町にも黒塗りの土蔵蔵やなまこ壁の蔵を持つ商家が並んでいる。がこの道は県道なので狭くて交通量が多く危険がいっぱいだ。松本城総堀の外に、更に守りの為の掘り起こしをした「捨堀の土塁跡」付近から、県道から逸れて総掘通り歩きに変更。

萩町一里塚跡を目指す。途中の交差点で地元在住のＹ．Ｒ子さんが合流した。

この先に十王堂跡標柱が有る筈も残念ながら見つからなかった。信州大教育学部付属の幼・

小・中（教育学部は長野にある筈だが）が続いている手前に「千国街道口」（糸魚川街道または塩の道）への分岐があるとのことだがこれも不明だった。

お昼もだいぶ過ぎており食堂を探すも本日休業の処が多く、仕方なく先を急ぐ。

ようやく岡田宿入口の岡田神社参道のケヤキ並木に到着。

ここでＹ．Ｒ子さん情報の美味しい豆腐屋が浅間温泉方向にあり、急いで店先テーブル席を確保して遅い昼食会に

（でもヘルシーで美味しい豆腐加工食品に皆さん大満足。Ｓ．Ａ氏、豆乳ソフトご馳走さまでした）

街道に戻り岡田宿の中心部を歩くが、宿場の面影はほとんどない。宿出口が桝形になっており口留番所が有ったとか。この先に「右 保福寺街道　左 善光寺道」の古い石の道標がある。（保福寺街道を行けば我々の故郷、青木・塩田・上田で、北国街道から中山道での江戸街道だ）。道標に従って左へ進むと国道にぶつかる。その手前に岡田伊深一里塚跡がある。国道は三才山トンネルで丸子（ここも上田だ）に抜ける２５４号線だが善光寺街道は真っ直ぐに進むと山道にさしかかる。

先程から先行しているらしいＹ．Ｎ氏から、頻繁に連絡メールが入ってくる。

（「峠は越えたか？」・「１４時までは四賀化石館で待っている」とか）

この先で山道は２つに分かれる。左が馬飼峠、右が刈谷原峠でどちらも刈谷原宿につながっている。右の山道は刈谷原峠までダラダラした登り道が続くが、俄然エンジンが掛かったＭ．Ａ女史に引っ張られて峠に到着。峠には茶屋が有ったそうで井戸があり水が溜まっていた。標高 920㍍で善光寺街道の最高地点だ。

一息入れ刈谷原宿に向け、峠を下る。途中に馬頭観音像・地蔵尊・庚申塔などが点々とある。刈谷原宿は小規模な宿場で、直線的な坂道両側に家が並んでいる。宿の出口は鉤の手で曲がっている。その手前に「しのの女玉成館」と「玉成学校跡」（今回世界遺産に登録される松本開智学校より１年前に開校した筑摩県の学校）がある。

街道は国道１４３号線（青木峠を越えて青木村・塩田平・上田への懐かしい道）を越えて、錦部地区に入ってゆく。改修された街道沿いにはワイナリーもある。板場地区には旧道が残っていて、馬頭観音石仏や「板場の一里塚」がある。旧道が再び新道と交差した地点に道標があり、会田宿まで２㌔との表示。ここまで峠越え１５㌔を歩いたので今日はここで終りにする。時刻は４時半過ぎ。

迎えの車で、穴沢温泉松茸山荘に到着。ヌルヌル温泉を堪能し地酒でゆっくりと打上げ。

＜二日目＞

今朝も、宿から会田宿まで送って貰う。

まず会田氏菩提寺の廣田(こうでん)寺を見学。本堂屋根には「六連銭」が。
会田氏は海野一族で真田氏とは同族で城下町がそのまま会田宿になったとのこと。立派な山門に登り昨日越えてきた刈谷原方面や足元の会田宿を眺める。

寺から一旦坂を下り、宿中に戻り屋号がかかる横町から善光寺常夜燈で立町の坂道を上り返す。本陣兼問屋の堀内家は門構えが素晴らしい。ただガイド本写真の立派な松は残念ながら見られなかったが。先程の廣田寺や無量寺への参道石門も街道に沿ってある。宿を抜けて立峠に向かう。

途中に岩井堂がありお堂の背後の岩肌には阿弥陀如来等の線刻が沢山彫られている。またお堂横の岸壁下には空洞があり石炭採掘の坑道跡だとか。

街道に戻り進むと一里塚跡だ。崖下には清水が湧いていたようだ。

この先の道下に大きな馬頭観音石仏があり、ここから立峠へのつづら折りの急な登りだ。芭蕉の「更科紀行」には四十八曲がりと記述されているそうだ。案内道標が残りの距離を教えてくれる。思った程は時間が掛からずに茶屋が数軒あった峠の広場に着いた。

昨夜飲み過ぎて食べ残した松茸御飯の握り飯と、朝食残りの漬物・梅漬けで昼食。

広場には春遅い信州のフキノトウが芽吹いており、競い合って収穫に勤しんだ。

ここから尾根道伝いに虚空蔵山麓にある唐鳥屋山城跡（会田氏）までのハイキングコースの案内版も有った。峠から下る道には、所々に石畳が敷かれている。古くは平安時代からのものもあるそうで、江戸時代に善光寺詣が盛んになると総延長は８００㍍近くになったらしい。「芭蕉の小径」と呼ばれる箇所もあった。傾斜が緩くなった坂の両側に家が並んでいる処が、間の宿「乱橋宿」だ。この先「中の峠」という小さい峠がありそこに物種太郎塚が立っていた。ここから西条宿（ここも間の宿）に向かって下ってゆく。

街道筋には、馬の水飲み場・一里塚跡・石仏などが点々と現れる。

篠ノ井線を潜ると国道４０３号に合流。この先はこの国道にほぼ沿って善光寺街道は善光寺まで行くことになるのだが。合流した正面の岩肌には「皿吊し道祖神」が落石防止ネット越しに見られた。西条駅で休憩する。Ｓ．Ａ氏は電車で篠ノ井に戻ることになった。ここ西条駅から坂北駅まで残り２．５㌔だ。暫く進むと西条宿（間の宿）になる。茶屋本陣跡や馬頭観世音が本尊の観音寺は、仁王門の先に馬の銅像が建っている。

線路の向う側には信濃三十三番観音札所のひとつ、関昌寺もあるが寄り道はせずに先へ先へと急ぐ。篠ノ井線をまた越えた先の村役場支所手前には、山清酒造もあった。

山北歴史民族資料館の前から街道を逸れて、坂北駅に到着し２日間のゴールとなった。

たまたますれ違いの為に列車ダイヤが遅れており、幸い？予定より１本早い電車に飛び乗れた。ラストスパートしたが何とか間に合って大変お疲れ様でした。

※2 日間　歩行距離２９㌔／所要時間１２Ｈ３０Ｍ

参加メンバー；山浦るみ子(8) 宮下明子(9) 池田有美子(69) 石井則男(4)宮澤康元(5)
清水淳郎(9) 磯村雄二(3)　（先行者？柳澤信義(3)）